

## 2 新処分場整備の背景と必要性①

○県内の産業廃棄物最終処分場(管理型)の数は減少

産業廃棄物最終処分場(管理型)の数

	H22	H26	H30
施設数	5	5	4

エコフロンティアかさま(笠間市)  
ほか 北茨城市 2施設  
桜川市 1施設

(出典)新産業廃棄物最終処分場のあり方に関する基本方針(令和元年8月)

○民間による設置が困難

産業廃棄物の処理は、民間が行うことが基本であるが、建設・埋立・埋立終了後の維持管理まで長期間にわたる事業であり、投資・維持管理コストが大きく、設置が進まない



平成16年度以降、県内で民間による管理型最終処分場の設置がない

# 新処分場整備の背景と必要性②

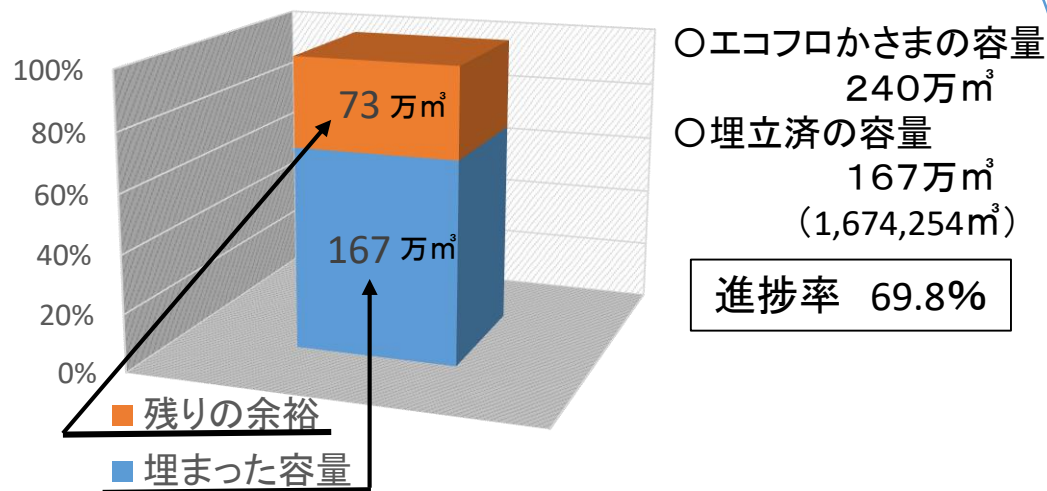
## ○県公共関与産業廃棄物最終処分場エコフロンティアかさまの現状

現処分場『エコフロンティアかさま』



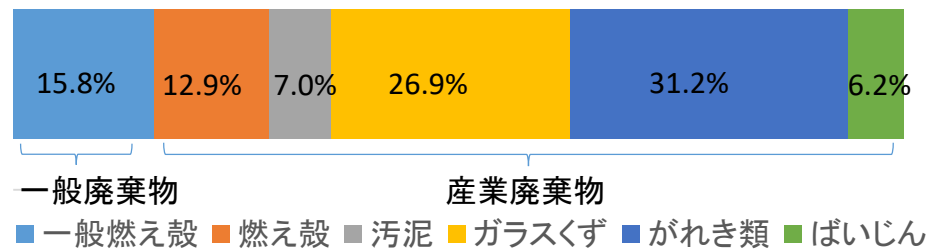
平成17年8月に県内初の公共関与の管理型産業廃棄物最終処分場として整備

埋立てた廃棄物の容量(R1年度末)



平成17年の開業から、令和2年3月までに約220万t搬入し、埋立済の容量は約167万m<sup>3</sup>となっています

品目別埋立実績(R1年度) 合計:172,548トン

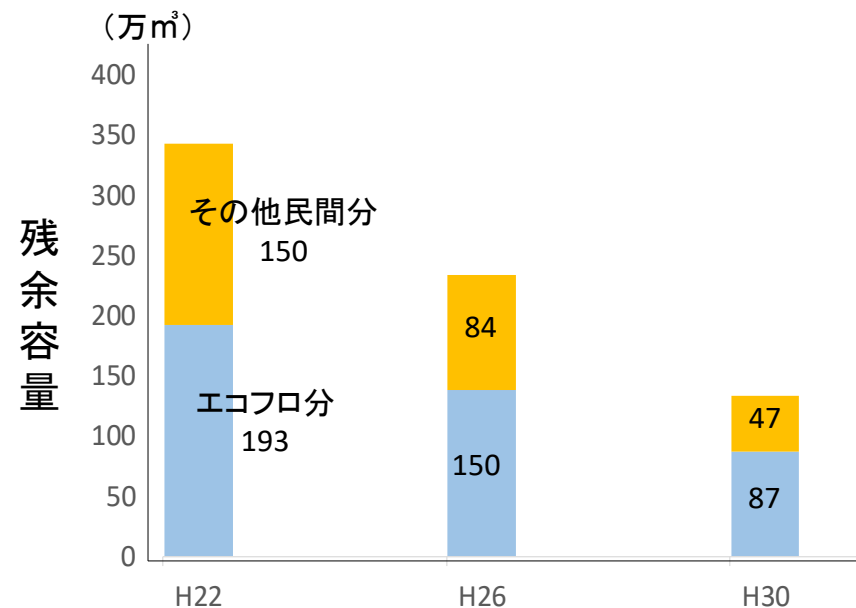


エコフロンティアかさまは、今後6年程度(令和7年度中)で埋立終了見込み(R2.3月末現在)

○県内の産業廃棄物最終処分場の容量がひっ迫

県内産業廃棄物処分場(管理型)の残余容量の推移

年度	H22	H25	H30
残余容量(万m <sup>3</sup> )	343	234	134
残余容量のうち エコフロ分(万m <sup>3</sup> ) ( )内はエコフロの割合	193 (56.3%)	150 (64.1%)	87 (64.9%)



現状のまま推移すれば県内における産業廃棄物最終処分場の埋立容量が近い将来にひっ迫することは必至の状況となっています